

イノシシ対策は、いま

イノシシによる農作物への被害が年々深刻化しています。市ではさまざまな対策を講じていますが、イノシシの猛威はなかなか止まりません。そこで今号では、イノシシ対策の現状をお知らせします。

イノシシの現状

捕獲頭数は増加傾向。平成22年度は5,000頭を超える
 皆さんは、市内では年間にどれくらいイノシシが捕獲されているかご存じですか。グラフ1(左ページ参照)は、イノシシの捕獲頭数の推移です。捕獲頭数は年々増加し、同22年度には5,000頭を突破。翌年度以降は4,000頭台に減ったものの、高い水準で推移しています。今年度もすでに2,400頭を捕獲(8月31日現在)。これは昨年の同時期と比べて約1.7倍となっています。また近年は、有明、倉岳、栖本といった上島地域の捕獲頭数が増えているのが特徴です。

年間3千万円を超える農作物被害

グラフ2は、平成18年度から同24年度のイノシシによる農作物被害額の推移です。主に水稲・いも類・果樹など年間を通じて被害が発生しており、3千万円を超える被害額となっています。

◆グラフ2 農作物被害額の推移

年度	被害額(千円)
H18	31,612
H19	28,587
H20	33,079
H21	38,056
H22	39,112
H23	38,537
H24	33,613

出典:市農林整備課調べ



箱わなにかかったイノシシ(4~5ページに関連記事)

市の取り組み

「イノシシ対策係」を設置

市では、イノシシ対策を進めるため、平成23年4月に農林整備課内に「イノシシ対策係」を設置。イノシシなどを対象にした鳥獣被害防止計画や緊急捕獲計画を策定し、同計画に基づき取り組みを進めています。

また、イノシシによる農作物被害防止への支援策として、

て、農業者などが行う農地を守るための電気防護柵の設置や、狩猟免許取得にかかる経費に対して補助金を交付。被害の軽減と捕獲の推進に取り組んでいます。

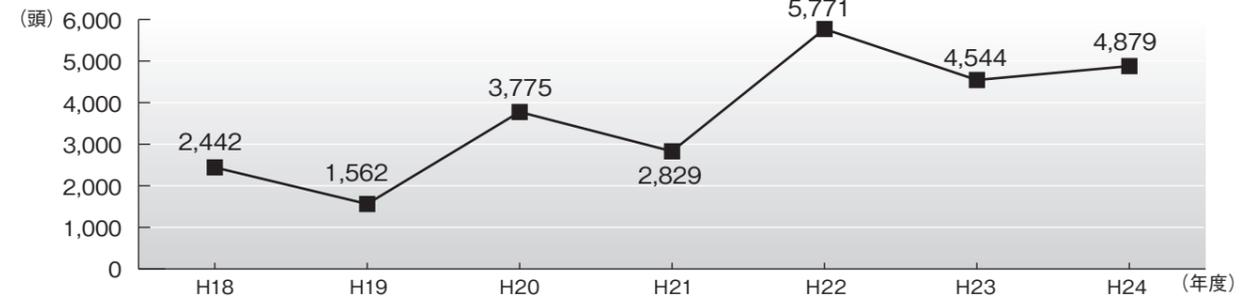
「天草市有害鳥獣捕獲対策協議会」を設置。同協議会内に「捕獲隊」を編成

行政や農協、農業共済組合、

森林組合、狩猟免許取得者など、関係者が一体となって被害防止対策を進めるため「天草市有害鳥獣捕獲対策協議会」を設置しています。同協議会では、狩猟免許取得者273人により旧市町を単位とする「捕獲隊」を編成。年間を通してイノシシの捕獲を行うとともに、捕獲に必要な「わな」の購入や3戸以上の共同で設置するイノシシ侵入防止柵の整備を進めています。

イノシシ対策は、いま

◆グラフ1 イノシシ捕獲頭数の推移



	本渡	牛深	有明	御所浦	倉岳	栖本	新和	五和	天草	河浦	合計
H18	572	432	102	263	33	41	180	217	220	382	2,442
H19	347	407	130	180	49	46	99	82	91	131	1,562
H20	873	527	324	327	121	149	204	389	293	568	3,775
H21	627	560	269	313	127	78	85	208	181	381	2,829
H22	1,271	812	765	403	377	256	388	286	387	826	5,771
H23	1,034	724	517	374	323	126	231	268	289	658	4,544
H24	1,096	666	690	295	316	164	235	297	246	874	4,879
合計	5,820	4,128	2,797	2,155	1,346	860	1,422	1,747	1,707	3,820	25,802

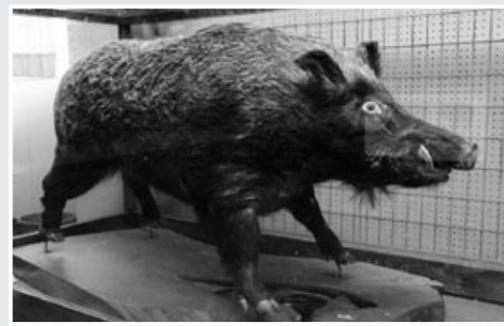
※狩猟により捕獲されたイノシシは含まれません。

出典:市農林整備課調べ

イノシシはいつから天草にいるの？

イノシシはいつから天草に生息しているのでしょうか。昔の文献には、江戸時代にイノシシがいたと思われる記録が残っているものの、明治時代以降は天草にイノシシはいないというのが定説だったようです。

しかし、昭和50年代に入ると天草地域でイノシシの目撃情報が出始めるようになります。そして同54年3月、新和町で大捕物の末、イノシシが捕獲されました。その後、このイノシシははく製にされ、新和町歴史民俗資料館に収蔵されています。



▲新和町で捕獲されたイノシシのはく製